

## 実施事例



# まちぶん in 那須野が原

2018年、栃木県にある4つの自治体(那須塩原市、矢板市、大田原市、那須町)にまたがる地域「那須野が原」は日本遺産「明治貴族が描いた未来～那須野が原開拓浪漫譚～」として認定されました。日本遺

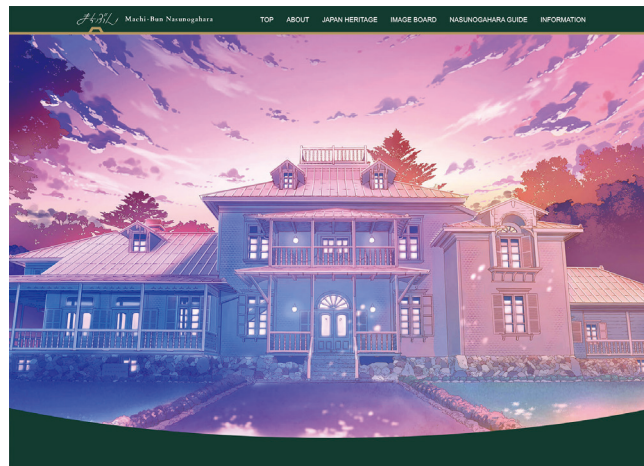
産の特徴でもある「ストーリー」に着目し、地域を舞台とする小説公募や小説創作ワークショップなどを行う企画「まちぶん」をSANKYOが提案・実施。那須野が原の地域PRに貢献しました。

### ■ 日本遺産のストーリーをテーマに小説を募集

民間企業・自治体の交流イベントで「まちぶん in 鹿児島県伊佐市」を紹介したことがきっかけで、企画提案が実現しました。「まちぶん」の核となる企画は小説の公募です。人気小説投稿サイト「エブリスタ」とコラボして日本遺産「明治貴族が描いた未来～那須野が原開拓浪漫譚～」をテーマとした小説を全国から公募しました。

### ■ ハイクオリティな特設サイトで注目度アップ

この企画の周知を図る取り組みの一環で特設サイトを構築しました。日本遺産「明治貴族が描いた未来～那須野が原開拓浪漫譚～」を知らなくても小説創作のイメージが湧くように、オリジナルのイラストを制作し紹介しました。



### ■ 地元の高校生対象のワークショップを実施

全国からの小説公募とあわせて地元の高校生に対する日本遺産のPRや、物語創作へ興味を持ってもらうため、小説の書き方ワークショップを実施しました。講師は小説創作のノウハウを持つエブリスタとSANKYOの担当者が務めました。



企画名:まちぶん in 那須野が原

実施時期:2019年

募集内容:イラストによる10をテーマにした小説

応募作品数:約110作品

展開場所:Webサイト

URL:machibun-nasunogahara.ss-contents.jp/



# 担当者インタビュー まちぶん in 那須野が原

## ■ 日本遺産サミットへの参加

私たちは、お付き合いのある企業から打診を受け、2018年9月に富山県で実施された「日本遺産サミットin高岡」に民間企業の一社として参加しました。日本遺産サミットでは、日本遺産に登録された地域の紹介や特産品の販売、体験型ワークショップなどの他、自治体の担当者と民間企業との交流会も行われ、そこでSANKYOのこれまでの取り組みを自治体の皆さまにご紹介しました。

の販売、体験型ワークショップなどの他、自治体の担当者と民間企業との交流会も行われ、そこでSANKYOのこれまでの取り組みを自治体の皆さまにご紹介しました。

## ■ プロジェクトスタートのきっかけ

「日本遺産サミットin高岡」でお会いし、SANKYOの取り組みをご紹介したことがきっかけで「那須野が原開拓日本遺産活用推進協議会」(以下、協議会)のご担当者様から連絡があったのは、2019年2月のことでした。日本遺産(Japan Heritage)とは、地域の歴史的魅力や特色を通じて日本の文化・伝統を語るストーリーを文化庁が認定するものです。2022年、全国に点在する日本遺産は、104のストーリーが認定。文化庁では、日本遺産のストーリーを認定するだけでなくとどまらず、認定した魅力ある有形・無形の様々な文化財群を総合的に活用する取り組みを支援しています。栃木県にある4つの自治体(那須塩原市、矢板市、大田原市、那須町)にまたがる日本遺産「明治貴族が描いた未来～那須野が原開拓浪漫譚～」は、2018年に「STORY #058」として認定されました。協議会は、この日本遺産のストーリーに関連した歴史や文化遺産を整備・活用し、地域活性化を推進することを目的としています。



日本遺産 ポータルサイト



まちぶん in 那須野が原Webサイトより

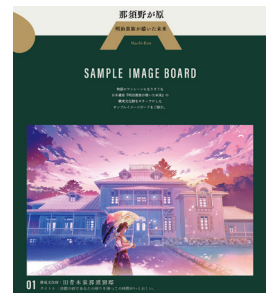
## ■ 「まちぶん」による地域活性化の提案

協議会様は、日本遺産サミットで説明を行った「まちぶん in 鹿児島県伊佐市」に大変興味を持たれていましたが、同様の内容で実施をする場合、プロポーザルでの提案上限額を大幅に上回ってしまう事から予算を圧縮するために企画を再考しました。

企画の柱は、小説を公募する「まちぶん」と専用のWebサイトの制作、そしてワークショップの実施と変更することなく、費用負担の大きいロケ地での撮影を取りやめ、代わりに日本遺産にまつわるストーリーをイラストでビジュアル化する案としました。この企画案で、2019年6月～7月に実施されたプロポーザルに挑みました。

## ■ イメージイラストを制作し小説を全国から公募

プロポーザルの結果、私たちの提案が採用されました。日本遺産「明治貴族が描いた未来～那須野が原開拓浪漫譚～」には、国や県、そして市が指定する文化財が多数含まれています。また、文化財があるロケーションも都市部から山間部まで広域にわたります。その中から公募に参加される方の創作意欲を掻き立てるような10のテーマを選び、イメージイラストを制作しました。イラストを掲載する専用サイトを制作し、プロジェクトのパートナーである株式会社エブリスタが運営する小説投稿サービスを活用して、全国からの小説作品募集がスタートしました。



まちぶん in 那須野が原Webサイト

## ■ 日本遺産のPRに「まちぶん」が貢献

投稿された小説の審査には、小説家であり「那須塩原まちづくり大使」でもある森 詠氏をはじめ、矢板市、大田原市、那須町にゆかりある方々にお願いしました。2019年12月に設定した締切日までの応募作品の総数は約110作品。一次審査を経て、最終的に3作品が入選し、副賞が贈られるとともに作品を掲載した記念冊子が県内の図書館や道の駅などに配布されました。このプロジェクトの取り組みによって、日本遺産について知らなかった県内外のユーザーに対して、普及啓発を促すことができたとの評価をいただきました。特に地域にお住まいの大勢の皆さまに日本遺産「明治貴族が描いた未来～那須野が原開拓浪漫譚～」を認識いただけたことは、協議会の目指すところであり、結果に大変満足しているとのコメントをいただきました。



「エブリスタ」の小説投稿サービスを活用

## ■ 高校生を対象としたワークショップを実施

プロジェクトがスタートし、「まちぶん」による小説公募を実施している期間中に県内の高校生を対象に小説の書き方をテーマにしたワークショップを実施しました。協議会から文学に興味のある学生に向けて実施したいとの要望があり、趣旨に賛同してくださった高校4校の他、栃木県高等学校文化連盟文芸部会でのワークショップが実現しました。講師は小説創作のノウハウを持つエブリスタとSANKYOの担当者。参加した学生が実際に短い物語を創作して発表までを行うワークショップは、教員と生徒双方から高く評価されました。参加した生徒の約半数の49%が日本遺産についての知識はなかったのですが、91%が「とても興味があった」「興味があった」と回答しました。また、74%の生徒が小説を「書いてみたい」「やや書いてみたい」と回答し、将来につながるイベントとなったようです。

